

1 1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率

算式

【分子】

分母対象例のうち、当該入院期間中に「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した患者数

【分母】

測定期間内の退院患者のうち「胃がん」を主病名として入院し、「K6552胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-42噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K6572胃全摘術 悪性腫瘍手術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した退院患者数

定義

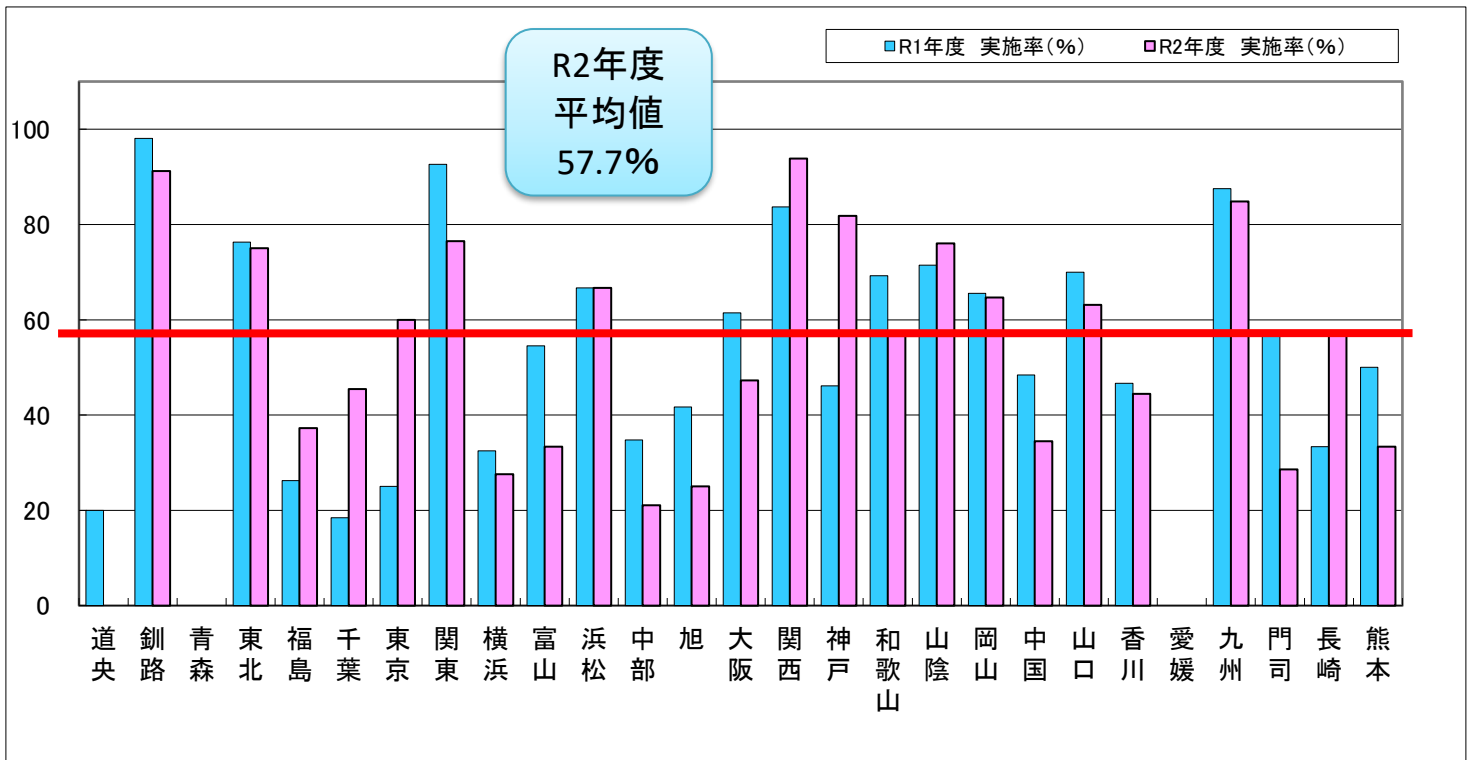
「胃がん」を主病名として入院し、悪性腫瘍手術を実施した患者のうち腹腔鏡下での手術実施割合

指標の解説

DPCデータより抽出

腹腔鏡下手術の有用性としては、開腹手術と比較し、入院期間の短縮、腸管運動の早期回復、術後の疼痛軽減等が挙げられており、当該手術の実施率により患者の負担軽減、社会復帰への貢献度を評価する。

1.1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率



No	施設名	R1年度			R2年度		
		分母	分子	実施率(%)	分母	分子	実施率(%)
1	道央	10	2	20.0	2	0	0.0
2	釧路	51	50	98.0	57	52	91.2
3	青森	13	0	0.0	11	0	0.0
4	東北	38	29	76.3	36	27	75.0
5	福島	61	16	26.2	51	19	37.3
6	千葉	38	7	18.4	55	25	45.5
7	東京	12	3	25.0	10	6	60.0
8	関東	27	25	92.6	17	13	76.5
9	横浜	40	13	32.5	29	8	27.6
10	富山	22	12	54.5	9	3	33.3
11	浜松	9	6	66.7	12	8	66.7
12	中部	23	8	34.8	19	4	21.1
13	旭	12	5	41.7	12	3	25.0
14	大阪	83	51	61.4	74	35	47.3
15	関西	98	82	83.7	81	76	93.8
16	神戸	13	6	46.2	11	9	81.8
17	和歌山	26	18	69.2	30	17	56.7
18	山陰	35	25	71.4	25	19	76.0
19	岡山	29	19	65.5	17	11	64.7
20	中国	31	15	48.4	29	10	34.5
21	山口	20	14	70.0	19	12	63.2
22	香川	45	21	46.7	63	28	44.4
23	愛媛	0	0	-	3	0	-
24	九州	24	21	87.5	33	28	84.8
25	門司	7	4	57.1	7	2	28.6
26	長崎	9	3	33.3	7	4	57.1
27	熊本	16	8	50.0	18	6	33.3
合計		792	463	58.5	737	425	57.7
平均	500床以上	52	35	63.6	43	27	56.9
	400床以上	30	20	59.3	35	22	58.1
	300床以上	27	13	51.9	25	14	61.0
	300床未満	11	4	34.7	7	1	17.4

※対象症例が複数ない施設については除外した